

SAKUYO GAKUEN NEWS

作陽学園報

くらしき作陽大学／作陽音楽短期大学／岡山県作陽高等学校



松田英毅理事長、旭日中綬章を受章

作陽学園理事長に就任以来、40年近くにわたって人間性を重視する教育に務め、私学振興に尽力したことが認められ、平成23年度春の叙勲において旭日中綬章を受章されました。

- 「現代文明社会への警鐘」……3頁
学校法人作陽学園
理事長 松田英毅
- 「災害」には教育力が問われる
……4頁
くらしき作陽大学
学長 有本 章
- 「作陽ジュニア・ウィンド・アカデミー」について……5頁
音楽学部長
林原郁雄
- 新たな食文化学部の構築に向けて
～チーム教育を目指して～……6頁
食文化学部長
山下静江
- 子ども教育学部第1期生を送り出すにあたって……7頁
子ども教育学科長
林 直人
- 「岡山県作陽高等学校」
……9～11頁
- 鶴声会近況報告・
翠会だより……13頁
- 平成22年度決算について
……14頁
- 演奏会のご案内……15頁

作陽大学へようこそ



4月3日、まだ少し肌寒い中、くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学・大学院の平成23年度入学式が挙行されました。440名の新入生が期待に胸をふくらませ、新たなステージへと歩み出しました。

また、4月15日、16日には、新入生対象の学外オリエンテーションが行われ、より充実した学生生活に向けて、学生同士、そして教員との親睦を深めました。

★学外オリエンテーション

▶ 神戸NHK放送会館見学（音楽学科…兵庫県）



◀ 出雲大社参拝（音楽教育学科…島根県）



▶ 内子町並散策（栄養学科…愛媛県）



◀ 塩作り体験（現代食文化学科…蒲刈島）



▶ 砥部焼絵付け体験（子ども教育学部…愛媛県）



◀ 厳島神社参拝（短大音楽学科…宮島）



「現代文明社会への警鐘」

理事長
まつだ ひでき
松田 英毅



今年3月11日の東日本大震災ではおよそ二万四千人の方々が亡くなられあるいは行方不明になられ、未だに十万の人たちが避難生活を送られています（5月27日現在）。謹んで心からお見舞いを申し上げます。

大学の近くの玉島の円通寺で若い頃修行された良寛禅師は、「災難を逃れるにはどうしたらよいか」との質問に「災難にあうときは災難にあうがよきにて候う」と答えられました。一見ひどい事を言われるお方と思われそうですが、そうではありません。自分の生き方や社会のありようを静かに反省し考える絶好の機会とせよということでしょう。

本学の創立者の松田藤子先生は作陽学園を創立するとき「明治以降の日本の学校教育は、事実を教え知識を与えることに偏りすぎている。それでは本当の人間は育たず、真の幸せな社会も生じないだろう。真に幸せな人生、社会をつくるには、事実とともに真実を、知識と合わせ智慧を教えねばならない。それを可能にするのは宗教であり、そのために仏教を基本とした学校教育こそこれからの日本社会に必要である」として、本学園を開学されました。

マグニチュード9の大地震とそれにより生じた巨大津波は東日本に未曾有の災害をもたらしましたが、このたびは天災だけにとどまらず追い打ちをかけるように福島原発事故が発生しそれに伴い起きている諸々の問題は高度に発達した科学技術文明が孕んでいる問題をさらけ出した感じがします。この科学技術文明で私たちは最高の幸せを手にするはずのものでありましたが、反対にいかに多くの人々が苦痛と悲しみと不安に陥ったことでしょうか。

原子力発電は原子核反応（核分裂）で熱を発生させます。これは、火力発電の石油や石炭による熱生産という化学反応に比べて百万倍の熱エネルギーを出します。自然界では地球上にはなく太陽や星の光や熱がこの核反応によるものです。

いわば人間の知恵が造りだした超ミニ太陽が原発であるといえます。しかし原発は大きな問題を抱えています。それは運転で大量の放射能が発生し、それを消し去る術がないことです。普通には放射能は感知不能で人体への影響が計り知れないということです。この問題を抱えたまま運転をしていました。これは現代の科学技術文明社会の一つの特徴であると思っています。

人類はひたすら富を求め、便利で快適な生活を追求してきました。それを実現してくれるものは科学技術であり、それを利用した経済発展により人類に幸せをもたらすという科学信仰が広く世界を覆ってきました。確かに、明治以来、我が国の科学技術は目覚ましい発展を遂げ、敗戦後も経済的復興を遂げ、豊かで快適な社会、生活を手にすることが出来ました。夜の日本列島を宇宙から眺めるとその姿がくっきりと不夜城のように見えます。先進国の大都会もそうです。コンビニは24時間営業しており全国のコンビニの電灯を消したら原発一基分の電力は不要になるともいわれています。

私たちの生活はあまりにも贅沢になりすぎているのではないのでしょうか。原発をやめて太陽光発電等他のエネルギー源に移行するのは勿論ですが、私たちの思考と生活のあり方を大きく変えねばならない時代になったと思います。今回の原発事故で多くの人が先祖伝来の土地を捨て、生業としていた農業を、酪農を、漁業をやめねばなくなりました。福島の人たちをはじめ、日本はもとより世界の人々まで放射能汚染の不安に悩まされています。

東日本大震災で起きた福島原発事故は、現代文明社会に対して、大きく方向を変えよとの警鐘であると思います。物質文明から精神文化の心豊かな社会への転換です。住み慣れた土地で喜びに満ちて生きいきと仕事に励むことのできる生活。世界の人々が不安に怯えるのでなく生きる喜びを分かち合えるような、そんな社会を作ることこそ必要でありましょう。

それはこれまでの科学技術にもとづく経済一辺倒ではなく、小欲知足の世界、質素でも他者への思いやりのある心あたたかな社会であります。そこでは生かされていることに感謝をし、生きる喜びをかみしめ、心安らかな世界が広がってくると思います。



「災後」には教育力が問われる

学 長
あり もと
有 本 章



去る3月11日に突発した地震・津波・原発事故からなる東日本大震災によって犠牲になられた多くの方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。また被災された皆様に衷心よりお見舞いを申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧・復興を祈念申し上げます。

「戦後」にも匹敵する「災後」の国難を克服するには、日本の津々浦々で山積している種々の課題の一つひとつ着実に解決することが求められます。とはいえ、あまりに予想外の状態に遭遇したため、果たして何から着手してよいか戸惑いが生じて不思議ではありません。荒廃した自然や社会や風土の復興には迅速な対応が不可欠である傍ら、時間をかけて着手する根本的な事業は何かが問われているように思われます。そこで、過去の教訓から学ぶために、黒船以来の近代化の足取りや戦後の復興の過程など過去の国難への対処のあり方を想起しますと、何よりも教育そのものに大きな期待がかけられ、人材養成によって無から有を創造する営みに大きな希望が託されたことに想い知らざるを得ません。

今回も新たな国づくりの中核に人づくりが位置づき、保育所から大学に至るまでの教育力が問われるに違いありません。試練の時代に対峙し、苦難を共有し、社会の創造的な発展を担う人材を養成せずしては、復興も再建もあり得ないからです。問題はどのような教育を推進するかですが、そのために求められるのは国や社会や大学での叡智にほかなりません。

国のレベルでは現在、第六期中央教育審議会が改革の焦点の一つを「大学教育の質保証」に置き、学士力や就業力の水準を高める方策を検討していますから、やがてマニュアル化へ迫りつくでしょう。大学の学問は、専門分野を軸に成立している以上、英国高等教育質保証機構QAAが専門分野ごとの水準を作成したように、教育学、社会学、経済学、音楽、数学、物理学、栄養学、医学といった個々の学問におい

て所定の学力水準が吟味されることになるでしょう。英語のTOEICやTOEFLは点数で表示するごとく、他の分野も同様の方向へ向かうと予想されますし、世界的にも大学版PISAのAHELOを中心に大学生の国際学力比較を行って学力の質保証を志向する動きが胎動し、学卒時の学力を高める方向に拍車がかけられ始めています。

大学進学者が50%を超えて、ユニバーサル段階に入った現在、学生の学習力や学力の「超」多様化が進行するのは回避できませんが、それに対応して大学教育の水準をいかに高め維持するかが国際的に課題になっている訳です。この波動は早晚、本学へも押し寄せ相応の改革を求めるのは必至だと予想されるところと考えると、出来合いのマニュアルに追随して最小限の質保証をめざすか、それを超える水準の質保証の試みを独自に展開するかの選択を迫られるはずですが、できる限り前者ではなく後者の道を辿り、本学の標榜する建学の精神の原点に立ち帰って人間教育に邁進すべきでしょう。本学は、短期大学、大学、大学院を通じて、また音楽、食文化、子ども教育の各学部等の専門分野を通じてスペシャリストを養成し、知力・徳力・体力・技術力の調和のとれた豊かな人間性を涵養する営みを模索してきましたが、今こそその自覚とさらなる前進が問われているに違いありません。

かくして、一変した日本社会の困難な状況を再建するために、いかにして国づくりの根幹をなす人づくりを行うか、そのために果たすべき本学の使命は何か重要性を増しています。この大切な時期に、学長に就任しましたことに重責を痛感している次第です。

学長プロフィール

有本 章

くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学学長・理事、子ども教育学部教授、高等教育研究センター所長、広島大学名誉教授、教育学博士、教育社会学（高等教育論）専攻。

広島大学大学院教育学研究科博士課程修了、大阪教育大学教授、広島大学高等教育研究開発センター長、比治山大学高等教育研究所長、などを歴任。

また、日本教育社会学会、日本高等教育学会、全国大学教育研究センター等協議会の各会長、文部科学省視学委員、大学評価・学位授与機構運営委員、大学基準協会基準委員会委員、文部科学省21世紀COE拠点リーダー、などを歴任。現在は日本学術会議連携会員、全国高等教育研究所等協議会会長、日本教育社会学会、日本高等教育学会、日本生涯教育学会の各理事・常任理事、CHER（ヨーロッパ高等教育学会）会員、ユネスコ世界科学委員会委員（アジア太平洋地域議長）、華中科技大学顧問教授、広島県生涯学習審議会会長、などを務めている。その間、国際文化会館主催「社会科学国際フェロシップ・プログラム」（第1次新渡戸フェロー）客員研究員として米国イェール大学、西独マックス・プランク研究所、英国ランカスター大学へ留学。第61回中国文化賞受賞。

著書に、『マートン科学社会学の研究』（福村出版）、『現代の高等教育』（岩波書店）、『大学教授職とFD』（東信堂）、『大学と学問』（玉川大学出版部）、『教育社会学概論』（ミネルヴァ書房）、『Crossing Borders in East Asia Higher Education』（Greenwood Press）、『National Innovation and the Academic Research Enterprise』（Johns Hopkins University Press）など内外に多数ある。

「作陽ジュニア・ウインド・アカデミー」について

音楽交流センター長
はやし ばら いく お
林 原 郁 雄



倉敷チボリ公園内で活躍していた青少年のパレードバンド「チボリガード」は、公園の閉鎖と共にその任務を終えましたが、同時に、それは61名の団員から楽器と練習場所を取り上げることを意味しました。当時、このバンドは本格的な楽器を使った音楽教育として多くの方々から支援されており、このシステムの消滅を惜しむ声が高まり、その声はやがて倉敷市長にも届いたのです。市長は、「子育て」の一環教育としての熱い思いを松田学長（当時）に届けられ、このバンドの育成を本学が継承することになりました。

本学がこの活動を引き受ける以上、「音楽教育の専門機関」として責任ある体制（システム）を構築せねばならないことから、管楽器・打楽器の教授等が中心となって時間をかけて慎重に検討した結果、平成21年6月に「作陽ジュニア・ウインド・アカデミー（作陽JWA）」が誕生しました。

このシステムのねらいは、「管打楽器教育の適齢期に合わせた良い環境を作る」ことにあります。管打楽器教育は、理想的には小学校3年生頃から始めるのが良いと言われていいますので、その子どもさんたちに、よく整備された本格的な楽器を使用していただき、その上に専門的な正しいレッスンを受けていただくことが上達のための重要かつ必要な条件です。このような環境作りは通常の学校教育の中では大変難しいことですので、それを本学が実現し提供することは大変有意義なことであり、同時に大きな役割であると考えています。

指導体制においては、本学の教授等の指導・監督の下に、選ばれた大学生達が楽器の指導を手伝います。それは、彼らにとっても指導体験を通して自らの演奏技術を高めるだけでなく、子ども達に触

れることにより、幅広い人格を形成するためのものとなっています。指導の内容については、各楽器の基礎的な奏法を学び、合奏を楽しむことが主眼ではありますが、青少年の健全な育成を願い「挨拶、掃除、感謝」の励行を実施しています。発足当時はなかなか声を出せない状況がありましたが、今では声を出して挨拶ができるようになりました。また、練習を終えた後にはメンバー全員で使用した部屋や階段などの掃除をすることや、指導していただいた先生には「ありがとうございました」と言うことが定着して参りました。子どもさん達には、この活動を通して「集団の中の個人のあり方」を考えたり、よりよい行動の仕方を身につけて成長を遂げて欲しいと願っています。

平成21年6月4日に開講しましたこの講座は、事前の調査ではチボリガードから継続して活動を希望する子どもさんは、わずかに十数名でしたが、倉敷市教育長の計らいで市内の小学校に働きかけることができて、その結果40名の熱心な子どもさんを集めることができました。そして、活動を開始して半年後に、大学内でパートごとのアンサンブルを中心とした「学習発表会」を開催して、保護者の皆様にも日頃の成果をご覧いただきました。平成22年7月には「第1回定期演奏会」を本学の藤花楽堂で開催しましたところ、倉敷市長さんのご臨席のなか、約600人のお客様をお迎えしての演奏会となり成功裏に終えることができました。

その後の活動も順調に進んでいます。本年2月に「学習発表会」を行いました。7月16日(土)には「第2回定期演奏会」を予定しており、子どもさん達は、現在そのための練習に取り組んでいるところです。

昨年の「第1回定期演奏会」は保護者の方々にも大変喜んでいただきましたが、その後、保護者会も活性化していると聞いておりますので、今年度の定期演奏会はさらにいい会になるのではないかと期待しているところでございます。



新たなる食文化学部への構築に向けて

～チーム教育を目指して～

食文化学部長
やました しずえ
山下 静江



食文化学部は平成14年度より発足した3学科制を平成23年度より2学科制に改組した。

新学部栄養学科（管理栄養士養成課程）は現行のままとし、現代食文化学科は、食と健康コース、フードコーディネイトコースとし1学科2コースとした。食と健康コースは従来の食生活学科、現代食文化学科を大筋では踏襲することとし、フードコーディネイトコースは、「食＝食べること」をおいしさ、心地よさや美しさなどの文化的側面に視点を当て、良質な食品の選択や健康的な食環境をコーディネートのできる人材の育成に力を入れることとした。現代食文化学科は両コースとも、食の生産から消費までのながれを理解し、食の安心・安全や栄養を保障しながらも、「おいしく食べて、楽しい食卓」で、人々の生活の質を高めるための多様な技術と専門的知識を身につけた人材を育てたいとの念願から生まれたものである。そのためにはまず調理する楽しさ、食べていただくうれしさを基本とし、自らもおいしく食べることを実感できる力を育てたい。このことを根底に調理技術の評価として検定試験を受け、資格としてフードコーディネーターの資格を保証する教育に力を入れる。食と健康コースは栄養士免許を取得することを基本とし家庭科教諭、栄養教諭、その他多くの資格を取得できる課程とした。このコースの利点は免許に裏打ちされた栄養士教育とフードコーディネイトコースの感性や芸術性の両方のコースで自分の力に合わせて選択科目を履修することにより、職業分野の幅が広がることである。

栄養学科は本大学で唯一国家試験を受験する管理栄養士養成課程である。本年3月に行われた第25回管理栄養士国家試験において88名の受験者中合格者79名、合格率89.8%であった。この成果は、合格者数では中・四国地区第1位で、全国レベルでも管理栄養士養成施設113校中合格者では22位、合

格率では35位という高いレベルである。学生は初期の希望は必ずしも管理栄養士をよく認識して入学したものではないにしても組み立てられた教育カリキュラムを学習していくに従って悩みながらも管理栄養士を「自らの目標」にして、自らの力で合格者となってほしい。その道程は苦しくもあり自己との戦いの連続であると思うが、それを支えたのは栄養学科の教育スタッフである。専門科目の国家試験担当教員は夏休みも冬休みもなく、いかにしたらわかりやすく学生に教えることができるかを考え、多くの時間を使って毎回の準備をする。また室家教務助手は、担当の先生方に学生の情報を伝え、学生には生活相談も含めて一人一人の個性を考えアドバイスをするといったきめの細かい指導をしている。この関係がうまく連動してこの結果につながっている。

しかし、この学科の目標は国家試験だけに偏重してよいものではない。管理栄養士として社会に送り出すための専門職種としての教育の徹底と共に、そのことを通してより深い「人としての力」をつけることも忘れてはならない大切なことである。国家試験にのみ教育の重点を置くことのないように心がけたい。私は「実践者」を育てるという長年の教育経験から、教育は教えることではなく知識や技術を授けることによって「教えられる側の人間を育てる」ことであると思っている。相手をよく見て、今だ！というチャンスを見逃してはならない。植物の種が生えてくるときに二葉は手を合わせたようにして生えてくる、祈りの姿も手を合わせる、二葉はよく育ちますようにという祈りの手なのだろうか。私はこの姿を見ると学生の希望を少しでも適えられるようにという祈りを全身で感じる。大学を支えているのは「学びたい学生」と「学生一人ひとりの力を伸ばすことのできる教育力を持った教員」と、それを支える「芯の通った学部・大学のリーダー」こそ必要ではないか。よくマニュアル、指示系統の徹底などが組織の上では指摘されるが、「とっさに判断できる人」「自分で考えられる人」も育てなければならない。そのためには日常的に正しい判断ができる自己の修練がなされていなければならない。先日学部の中に学科間の順位を感じている学生や教員がいるとのご指摘をいただいた。「そんなことはない」。自分の進む道をきめた「私」を認め、またそれを伸ばすように教師も接するべきである。人生の選択は多様であり自分の進む「私の人生」に喜びを感じてほしい。2学科2コースとも他の学科、コースのよいところを認め合い伸ばしあい、学部一体となった教育のできることを切に望むものである。

子ども教育学科第一期生を送り出すにあたって

子ども教育学科
子ども教育学科
はやし なおと
林 直人



本学科が設立されて4年目の完成年度を迎えた。来春に卒業を控えた学生は67名、今、目前に迫った採用試験への準備や就職活動に大わらわである。第一希望職種を紹介すると、保育士30%、幼稚園教諭27%、小学校教諭13%、その他一般・児童施設職員等が30%である。子ども教育学科の名が示すとおり何と言っても教職を目指す者が圧倒的である。

設立時の理念を振り返ると、建学の精神である大乘仏教に基づいた人間性の涵養を基軸に豊かな人間性を持った人間の養成を第一とし、次に確かな実践力そして開かれた人間関係を目指した。また、音楽学部、食文化学部の教育内容を生かし音楽、食育にも強い作陽ならではの個性を備えた先生の養成を同時に目指した。特に、ピアノ力の育成においては音楽学部の先生と連携し、学生の力に応じた個別指導でレベルアップを図れるようにした。これらの取り組みは現在も変わらない。

さらに、2年目からは発達障害の子が日本では6.3%もあると言われながら、教育現場では専門家が少なく、これらの指導が行き届いていない現状に鑑み、次年度入学生からではあるが特別支援学校教諭一種免許も取れるようにした。このことに伴い、特別支援教育の教員体制も充実し、保育園、幼稚園、小学校での教育実習中に感じた困り感をストレートに相談できるなど、育成する資質領域の幅を広げることができた。

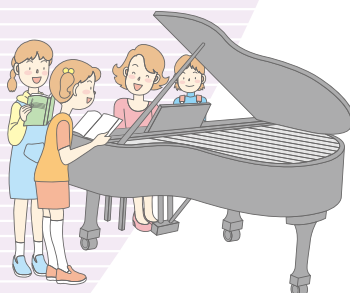
3年目からは、特に出口戦略を考え、幼・保、小学校別正課外特別プログラム（現在は2年生から実施）や進路支援室主催の就職講座もスタートさせるなど、自己実現を強力に支援するプログラムを起動させた。

学生にあっては、モデルとなる先輩がいない中で自分たちだけで新しい分野を切り開くフロンティア精神を持つ者も多数出現してきた。典型的な例が、クラブ（同好会）活動で

ある。これまでなかった野球、ソフトボールといった体育系の部を自分たちで創ってきた。「無ければ創る」である。学部専属の児童文化部「ぱれっと」に至っては中四国保育学生研究大会においても高い評価を得るなど、学生の実力は目を見張るものがある。それに伴い、年を追うごとに公演依頼が増え、去年は学外公演だけで22回を数えた。すっかり地域に根付いた感がある。これも一期生の努力に負うところが大きい。また、学部専属のボランティアサークル「ぼっけ」も地域のニーズをいち早く捉え、貢献活動を展開している。学外活動のため目立たないが、年間51回と豊かな人間性を自らの活動で涵養している。頼もしい正のサイクルである。もちろん既存の部活動で存在感を示している者も多い。また、実習や教育現場でのボランティア等を経験する度に課題が具体化し、カリキュラム内容に正対する真剣さも一層増してきた。

最高学年となり、社会に飛び立つこうした状況において、学部先輩からの情報がない中でも、これまで以上に学生の成長がみえるのも頼もしい限りである。人はその自覚・覚悟において行動することを証明してくれている。

しかし、依然就職氷河期である。この試練を乗り越え、頑張りたいと願わずにはいられない面もある。また、21世紀はグローバル化が一層進み、知識は日進月歩で、競争と技術革新が絶え間なく生まれ、そして知識の進展は旧来のパラダイムの転換を伴うことが多くなると言われている。こうした時代にあっては、主体的に前に踏み出す力、課題を発見して論理的に考え抜く力、豊富なコミュニケーションを基にチームで働く力等様々な力が求められているが、変化の激しい時代こそ「不変・不易」を見ることも大事である。「変わるもの」に目を奪われると、最も大切なものを見失うことがよくある。教育ではなおさらである。変化とは全く違うものに変化するのではなく、「不変・不易であるもの」が常に底に流れていると考えることが重要である。さすればそれは相手を思い、明るく、前向きに、ねばり強く物事を考えることのできる「人間性」と言えるであろう。まさに建学の精神を身に付けた本学の学生の出番を意味している。自負心をもち有益な人材として活躍してほしい。



教員免許を取って、母校にもどりたい

食文化学部 佐々木 智子さん

高校生レストラン「まごの店」出身

日本テレビ系列にて土曜日夜9時から放送され、7月2日に最終回を迎えたドラマ『高校生レストラン』を、皆様ご存知でしょうか？このドラマのモデルとなったのは、三重県立^{おうか}相可高等学校の生徒たちが手がけるレストラン「まごの店」です。

さて、今回は、くらしき作陽大学 食文化学部 現代食文化学科3年生であり、相可高校と「まごの店」の卒業生でもある佐々木智子さんに、実践を通して学んだこと、そして大学生活や将来について、お話を伺いました！

☆「まごの店」とはどのようなお店ですか？

「まごの店」は、相可高校「調理クラブ」に所属する生徒たちが、調理・接客・販売・会計など全ての業務をこなす、全国で唯一の高校生レストランです。2002年、多気町五桂池ふるさと村に相可高校 食物調理科の調理実習施設として開店し、目の前で営業する農産物直売施設「おばあちゃんの店」にちなんで、「まごの店」と名づけられました。生徒たちに学校では経験のできない実践の場を提供することを目的に運営され、授業と重ならない土、日、祝日や長期休暇中に営業し、お客様に地産地消の食材を使った本格的な料理を提供しています。

☆佐々木さんは、どんな仕事を担当していましたか？

「まごの店」では、4つの班に分かれ、「厨房」「ホール（接客）」「仕込み」「イベントでのお弁当販売など」の業務を交代で担当します。特に力を込めたのは厨房です。火のとおりに具合や盛り付けなどには、細心の注意を払いました。また、全ての業務を経験することで、お店をするにあたり調理以外の面について知ることが重要だと、身をもって感じました。

☆苦労したことは何ですか？

作ったものをお客様に食べていただくとなると、料理そのもの以外にも気を配る必要があります。衛生管理や接客の技術を身につけるのには、特に苦労しました。接客については、技術向上のために「サービス検定」を受検しました。検定試験では、正しい言葉遣いや態度、商品知識も問われます。お客様からの質問などに対し、プラスアルファの対応でさらに満足していただけるように、調理技術・商品知識・接客の全てを網羅できるよう努めました。

☆お金をいただいて料理を提供するのは大変だと思いますが、どうでしたか？

やはり大変でした。お客様に食事を提供することに責任が伴うのはもちろんですが、「お客様が満足するものを提供し

なければ」ということも強く感じていました。接客などでも「高校生がやっているから」と甘く見てくれている部分がありますが、そこに甘えてはいけません。入学までは気にしていなかった「礼儀」についても、先輩との上下関係やお客様との会話、周囲の人々の姿勢などから、自主的に改めるようになりました。

☆くらしき作陽大学に進んだきっかけは、何ですか？

始めは専門学校への進学を考えていましたが、恩師の先生に大学に行く気はないか？と聞かれ、模試を受けさせてもらったことが、大学進学へ向かうきっかけとなりました。恩師の思いは、「教員免許を取って高校に戻り、生徒たちに教えてくれ」というものです。高校在学中、学校主催で行っている料理教室に月3・4回参加し、地域の方や子どもたちに料理を教える活動を行っていました。そのとき感じていた“人に教えることの楽しさ”から、「やってみよう」と思い立ちました。また、高校時代から尊敬する先輩が作陽大学に進学され、その方からの評判もきいていたことから、作陽大学への進学を決めました。

☆大学ではどんな勉強をしていますか？

将来は「料理を教える人になりたい」と思っています。そのために大学では、栄養士や家庭科教員免許、フードスペシャリスト、食品衛生管理などの勉強に取り組んでいます。「食」に関して、取れる資格は全部取ろうと思っています！



玉島ケーブルテレビ「バレンタイン企画」

●高校生レストラン

高校生レストラン「まごの店」は平成14年10月26日、五桂池ふるさと村「おばあちゃんの店（農産物直営施設）」の食材を利用した、相可高校食物調理科生徒が運営する調理実習施設としてオープンしました。この実習施設は相可高校・ふるさと村・多気町（産・官・学）が協働して実現したもので、開店以来「生徒たちのきびきびとした元気な姿」や「美味しいうどん」などが話題を呼び、ふるさと村への入場者数の増加とともに「おばあちゃんの店」の売り上げアップなど波及効果も大きく、地域の活性化につながっていきました。

高校生レストラン「まごの店」ホームページ（<http://jr2uat.net/mago/mago.htm>）より抜粋

Revolution & Development 岡山県作陽高等学校

進学之力・就職之力・スポーツ之力・部活動之力・音楽之力

校長

第10代校長着任あいさつと本校の近況報告 校長 赤堀 元美



第十代の岡山県作陽高等学校・校長として勤務しております赤堀元美です。県立岡山城東高校校長を最後に定年退職をいたしました。ご縁を頂いて素晴らしい学校の校長として勤務できますことを大変光栄に存じますとともに、その責任の重大さに身の引き締まる思いで一杯です。本校の生徒・教職員、多くの同窓生の方々のため、さらなる発展を目指して、一生懸命に努力していきたいと思いますので、今後とも何卒よろしくお願いいたします。昨今の少子時代による中学生数の減少と公立高校授業料無償化実施、さらには県北全体の生徒数減少による影響で、本校の定員欠員状況が続いております。そのような厳しい状況下で今一度「県北の雄」作陽高校の復活がのぞまれております。部活動の面では、春季岡山県高等学校野球大会において見事優勝を成し遂げ、今後の活躍が大いに期待されているところです。また、柔道の『ますらお旗争奪大会』では見事優勝し、中国大会岡山県予選でも団体優勝。個人戦でも6階級で優勝するなど枚挙に暇が無いほどの活躍ぶりです。また、サッカー部やゴルフ部も大活躍中です。一方の進路実績面でも今春は国公立大学に19名の合格者を輩出するなど進路目標達成率100%の輝かしい実績を残してくれています。今後ともこのような栄えある状況が継続するように尽力していきたいと思います。応援をよろしくお願いいたします。

参事

作陽 イズ ナンバーワン!

参事 山下 亨



昨年は作陽学園創立80周年の節目。学園創立者松田藤子先生が県北の雄都・津山で作陽高校教育に描いた夢が実現する時が来ている。「武」の夢。主要な試合に優勝を続ける柔道部、甲子園目前の野球部、国立での全国制覇に挑むサッカー部、そしてゴルフ部も躍進を続ける。藤子先生のもう一つの夢「文」。基礎学力を養い進学力を高める生徒たちがその素質を練磨し国公立や有名私大への多数合格を目指す。それを助ける熱血の教師たち。

危機に立つ日本。「大人や行政に頼らない。ここの復興は俺たちがやる。」東日本大震災の被災地で誰かのために労働と知恵を出す高校生たち。彼らが新しい日本をつくる。作陽高校生も同じ想いを共有したゆまず切磋琢磨して社会に出る。

高校は全人教育が使命。作陽の校訓「念願は人格を決定す 継続は力なり」は、国家社会に有為な人材を育てるバックボーンである。かつて、藤井太郎校長は、生徒の素質は「親と子と教師の三位一体の努力の結合で引き出される」と語り、「気狂いじみたほど熱をもって懸命に努力する教師のもとに気狂いじみた程熱心な生徒が生じるものである」と説いた。それが作陽精神のDNAである。

高校あつての学園。松田英毅理事長は高校イメチェン（改革発展）を決意された。その思いは校歌の一節から伺える。「五濁の海は荒くとも不動の信念我にあり」。

副校長

就任にあたって

副校長 塩浦 六丸



教頭職を10年間務めさせていただき、そして今年度より副校長職を拝命いたすことになりました。

振り返れば、昭和50年4月から高等学校へ勤務させていただき37年目に入りました。学園の基本方針である「学力と人間性のより一層の向上」を目指して、学年、コース、教科などで具体的な方法を模索し、出来るところから実践し、生徒の満足度を高めていくべく教育運営にあたっての基本方針を展開しているところであります。微力ではありますが、学園のため、生徒のため、誠心誠意務めさせていただきますので今後益々のご指導、御鞭撻を宜しくお願い致します。

合掌

副校長 兼教頭

就任にあたって

副校長兼教頭 中山 勇



今春より、ご縁あつて本校にお世話になっています。もともとは英語教員として県内の数校の公立高校で英語教育等に取り組んできました。前任校は同じ津山市内の津山高校（副校長）でした。本校にお世話になるまでは、本校のことは皆目知らないことばかり。実際に赴任してみて新たな発見や驚きとともに、不安や戸惑いを覚えたことも正直ありました。しかし、建学精神、校風、教育活動等の作陽教育のカルチャーが徐々に分かってくるにつれ、また親切なお教職員の方々、生徒諸君の気持ちのいい挨拶や振る舞いなどに触れるにつれ頑張っていこう、教育活動の充実向上に努力していこうという決意を強めてきました。教職員のチーム、生徒諸君においては学年やクラスというチーム、また部活動のチームなど、それぞれが個々の努力によりチームの絆と力を強め、教職員と作陽生が一体となって力を発揮し、信頼を勝ち取ってほしいと思います。それには、基礎学力の定着、学力の向上、スポーツや音楽での活動などに地道に取り組むことが大切です。人格の形成を主眼とする作陽教育が地域や社会から評価されるよう共に努力を継続していきましょう。私自身も微力を尽くしたいと思いますので、一緒に頑張っていきましょう。

1年生

「1学年の運営方針」

1学年主任 松本 賢治



4月8日、男子108名、女子74名の182名が作陽高校に希望を抱いて入学した。入学して約1カ月が経過し、宿泊研修、初めての中間考査の学校行事をこなし、欠席者も殆んどなく落ち着いた雰囲気スタートが切れている。宿泊研修では、1泊2日の日程で野外炊事、オリエンテーリングなどを行い、クラスの親睦を深めた。学習面においては基礎学力向上を目指して様々な取り組みをしている。また、部活動にも134名の生徒が入部し熱心に活動している。教育実践目標の1つである挨拶を、他人に心を開く第一歩として笑顔で気持ちよく行えるように取り組んでいる。学校生活が充実し、豊かな人間性が身につくように1年団教員一同努力していきたいと考えています。

2年生

「2学年の運営方針」

2学年主任 杉本 哲也



新学期を迎え、205名での出発となりました。明るくのびのびとしたよい雰囲気でスタートを切れたように思います。2年生は「なかだるみの学年」とよくいわれます。将来の目標が漠然としており、のびのびがダラダラと経過してしまうという状況もあります。事実、新学期が始まり約2ヶ月が経過しましたが、来年度の進路決定にむけて直向きに学習に励む生徒がいる一方、若干の落ち着きのなさ、けじめのなさも見受けられます。今後、生徒一人一人が自身の目標や夢を見つけ、その目標に向かって頑張る自分づくりをしてほしいと思っています。昨年に引き続き漢字・英単語の小テストや今年度から始まった基礎学力向上の取り組みを合わせ、生徒の夢実現に向け今後一層の支援をしていきたいと考えています。

3年生

「3学年の運営方針」

3学年主任 高峰 和三



高校3年生となりました。それは、同時に18歳に訪れる人生の大きな選択の時を意味します。－進路選択です。私たち3学年の教員に出来ることは何か－それは「生徒と将来について語ること」です。一人一人の生徒の「人生」を思えば思う程、決して妥協した進路指導を行うことは出来ないのです。進路に対して「自覚している、していないの差はあれども、全ての生徒を『賢く』したい！」そのように考えています。私たち教員が考える「賢い」には、二つ意味があります。一つは「学力面」においてです。社会に出るとき、社会人として最低限必要な知識の習得－言葉を知り、言葉を使うこと。この能力を保障するため、本年度より「語彙・読解力」向上を目的とした基礎学力向上プロジェクトを始動しております。この取り組みを通して、必ずや表現力豊かな、社会で活躍出来る人材を育成することが出来ると考えております。もう一つの重要な意味として「人間として『賢い』」ということが挙げられます。ただ単に学力だけが高いのではいけません。人間として、自己を見つめ、他人を思いやり、正しいことに自信を持って突き進むことが出来る。これこそが、まさに社会に出たとき、大切なことではないでしょうか。私たち3学年の教員は生徒の進路保障はもちろんのこと、高校生活の集大成として、責任を持って「人間教育」に取り組んでいきたいと考えています。

新任

新任教職員のご紹介



■奥藤 耕士 ■担当教科 英語

はじめまして。今年度より、英語科の常勤講師として勤務させていただくことになりました、奥藤耕士と申します。大阪府出身で、津山は初めての土地ですので、いろいろとお教えくださると嬉しいです。人生において、高校生活は二度とないかけがえのない時間です。その中で子どもたちは、時に喜び、時に悩み、苦しむことがあります。またそれをはっきりと表現する子も表現しない子もいます。生徒の心の底まではなかなか見えるものではありませんが、一人ひとりの個性を尊重し、ともに喜び、また支えていくことができる。そのような教員でありたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

退任

退任された教員のご紹介

江原 稔先生 (校長)	在職期間 6年	角田篤敏先生 (商業)	在職期間 5年
田口 章先生 (理科)	在職期間 34年	山崎由加先生 (体育)	在職期間 5年
米井千恵先生 (国語)	在職期間 8年	木原隆生先生 (国語)	在職期間 3年

大変お世話になりました。

作陽高校生の成果をご紹介します

おもいっきり学べる教育環境 おもいっきり活躍できる部活動 おもいっきり応援できる一体感

進路 主な進路実績

2年連続進路保障100%を達成

—平成23年度3月卒業生の実績—

【国公立】

大阪府立大(総リハ)・筑波大(体)・岡山大(理)
香川大(教)・防衛大をはじめ19名合格

【私立 160名合格】

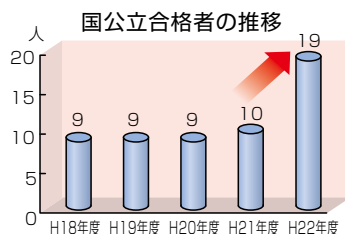
くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学3名合格
関西圏：同志社大・立命館大・関西学院大

関西大・京都産業大・近畿大・甲南大
龍谷大 他多数

関東圏：専修大・東洋大・駒沢大・国士舘大
東海大 他多数

【専門学校 42名全員合格】

【就職内定 46名全員合格】



—過去の主な進学実績—

【国公立】

大阪大・大阪府立大・筑波大・神戸大
首都大学東京・岡山大(医文教理工)・鳥取大
高知大・徳島大・島根大・東京農工大・防衛大
他多数

【私立】

慶応大・ICU・早稲田大・明治大・法政大
中央大・同志社大・立命館大・関西学院大
関西大・青山学院大・専修大・日本大・駒沢大
東洋大・京都産業大・近畿大・甲南大・龍谷大
佛教大・くらしき作陽大学 他多数

部活動 主な部活躍実績

県大会・全国大会で活躍する部活動多数

【サッカー部 男子】

平成22年度全国高等学校総合体育大会ベスト16 (19回出場)

平成22年度全国サッカー選手権大会ベスト16

(6年連続ベスト16以上 H18準優勝 19回出場)

平成22年度中国新人大会優勝

【サッカー部 女子】

平成21年度全日本女子サッカー選手権大会出場 (2年連続)

平成22年度全日本高等学校女子サッカー選手権大会出場 (3年連続)

平成23年度岡山県女子サッカー春季大会優勝

【柔道部】

平成20年度全国高校総体団体3位 (岡山県勢初)

平成22年度金鷲旗柔道大会3位

平成22年度第11回中国高等学校柔道新人大会優勝

【硬式野球部】

平成22年度第92回全国高等学校野球大会選手権岡山大会ベスト16

平成22年度秋季岡山県高等学校野球大会ベスト8

平成23年度春季岡山県高等学校野球大会優勝

【ゴルフ部】

平成20年度全国高等学校ゴルフ選手権大会団体女子優勝

平成21・22年度中国高等学校ゴルフ選手権大会女子団体優勝男子団体準優勝

平成22年度中国ジュニアゴルフ新人戦 個人男女完全制覇

【バスケットボール部 男子】

平成22年度岡山県高校バスケットボール新人優勝大会 県6位

平成23年度岡山県高校春季バスケット優勝大会 県ベスト8

平成23年度美作地区総合体育大会バスケット競技の部 優勝 (4年連続)

【吹奏楽部】

全日本吹奏楽コンクール岡山県大会 8年連続金賞受賞

【その他の部活動】

軟式野球部/バスケットボール部女子/ソフトテニス部/硬式テニス部

バドミントン部/バレーボール部/剣道部/卓球部/チアリーダー同好会

ダンス同好会/演劇部/書道部/放送部/美術部/生物部/調理部

茶道部/ボランティア部/囲碁・将棋部/軽音楽部/アンサンブル同好会

ESS同好会

文武両道で、確実に成果を収める高校として、全国から注目を集めております

2011

オープンスクールのご案内

岡山県作陽高等学校

2011 SAKUYO OPEN SCHOOL

第1回	6月25日(土)	招待
第2回	7月31日(日)	体験
第3回	10月30日(日)	説明
第4回	11月23日(水・祝)	卒業

満足度
No.1

9月4日(日) 清陵祭文化の部
9月8日(木) 清陵祭体育の部

実施 内容

- ★全国制服ファッションショー ★作陽制服プロデュースアンケート
- ★吹奏楽部コンサート ★コース・系説明
- ★授業体験・部活動体験・教育講演会・入試説明会
- ★入試問題対策講座・面接対策講座・e.t.c.

★みなさまのご参加をお待ちしております★

ホームページのご紹介



随時更新中

アクセスしてください

作陽高校 で 検索

<http://www.sakuyo-h.ed.jp>

平成24年度 作陽高校 受験相談・入学相談実施中

今の作陽生の様子

平成24年度学校案内・生徒募集要項

平成24年度入試について など

ご質問、ご相談はこちらへどうぞ

TEL: (0868)23-2188

メール: sakuyo@sakuyo-h.ed.jp

渉外部
入試係

入試

学生募集の現状

アドミッションセンター・入試広報室

1 はじめに

平成23年度の入試も終わり、新入生がキャンパスデビューを果たす頃になると、本年度の学生募集が開始される。昨年度の入試を振り返りながら、本年度の募集について述べてみたい。ここ数年の全国的な顕著な傾向として見られるのが経済不況のもたらす影響であり、それは国公立を問わず自宅から通学圏の大学を選ぶ地元志向と教育系や医療系の人気に見られる資格志向の高まりである。本学の三学部と短大音楽学科においてもそれぞれこの傾向が顕れた23年度入試であった。

2 音楽学部・短大音楽学科

全国的に経済的要因や就職困難状況から音楽系への進学を躊躇う傾向が見られる中、本学の音楽学部・短大の入学者は前年度を僅かではあるが上回ることができた。これは大学見学会、クリニック、受験講習会等での先生方や事務局員の地道な取り組みに負うところが大きいと言えるであろう。しかし、完成年度を迎えた大学院において定員を満たすことができなかったのは残念であった。

昨年度の入試から今後の募集活動で取り組まなければならないいくつかの課題も顕著になっている。それらは九州や四国に見られるような受験者が減少している地域への募集活動のあり方、指定校やAO入試における本学を第一希望とする入学者の増加対策、また、入学者が減少している学科への募集活動などである。これらの課題への対策として、本年度から音楽改革会議の実施に伴い、推薦入試の併願制、音楽系部活動を有する高校への指定校枠の拡大、同窓生入試の導入などの入試制度の変更、学科間での専修の組替えや音楽教育学科の学納金の減額など様々な改革を行った。更に、文科省の補助事業である「就業力育成支援事業」の採択により、豊かな人間性を育み、音楽を真剣に学び就職も考える環境を整え、就職100%を目指す就業力育成にも取り組むこととなった。これらの改革が今後の学生募集に多いに役立つものと期待する。

3 食文化学部

栄養学科は、資格志向の高まり、管理栄養士国家試験の高い合格率や学納金の減額等を追い風に受験者を大幅に増やすことができた。出願数は前年度比76ポイントの増加であり、ここ数年の定員充足型から選抜型の入試を行うことができた。本年度は指定校と推薦入試入学者を絞り込みながら、一般やセンター利用入試での入学者を確保し、定員を充足させることが大きな課題となる。

2コースに改編した現代食文化学科は、定員充足には少し及ばなかったものの、管理栄養士の影響を受けて、栄養士養成の食と健康コースでは入学者を増やした。しかしフードコーディネーターコースではイメージが受験生に充分浸透していないためか、受験生を増やすことができていない。本年度はコースの魅力をいかにして発信するかが課題である。

4 子ども教育学部

教育系の人気と地元志向の影響が最も顕著に出たのが子ども教育学部である。全体としての出願者は前年度比74ポイントの増加であるが、一般とセンター利用入試での出願者は前年度比123ポイントと大幅に増加した。4回目の入試にして始めて選抜型の入試を行うことができた。選考種別に占める入学者の割合は、AO、指定校、推薦の前半が高く、一般やセンター利用での後半に入学者が少ない。栄養学科と同様に、後半での入学者を増やしながら定員を確保していくこととともに、今までの「滑り止め」大学から、受験生に選ばれる大学へ脱皮していくことが大きな課題となる。

5 終わりに

食文化学部と子ども教育学部においては、現在のトレンドで受験生が集まってきているが、この傾向がいつまでも続く保証は無い。今こそしっかりと教育・研究の実践と数字に表れる出口の実績を担保しなければならない。音楽学部では本年度の改革の成果と就業力の育成効果に期待するものである。学生募集とは大学への信頼をステークホルダーの中に醸成するものであることを肝に銘じたいものである。

同窓生の皆様へ

入学優遇制度のご案内

平成21年4月より、同窓生のお子様が本学に入学する場合、次のような優遇制度が設けられました。

入学優遇制度

本大学・短大の卒業生のお子様が本学に入学した場合、入学後、入学金相当額を給付いたします。
(音楽学部：350,000円 食文化学部・子ども教育学部：250,000円 短期大学：300,000円)

鶴声会だより

鶴声会近況報告

鶴声会会長 井端 豊実



各支部等において様々な活動が展開され、また新たな試みも計画されていますので、まずは、ご報告のご案内からさせていただきます。

平成23年3月27日に鹿児島県支部において、支部単独でのスプリングコンサートを鹿児島県民交流センターで開催されました。多くのお客様に作陽の卒業生の高い演奏技術を披露され、大成功をおさめられました。

平成23年5月15日には、高知で同窓会と大学と高知県吹奏楽連盟の共同事業として、吹奏楽クリニックを実施しています。今年は岡豊高校で受講者600名を対象に楽器別クリニックを実施しました。

平成23年5月22日には、関西支部総会が多くの参加者のもとで開催されました。

平成23年11月には岡山県支部でも支部単独でのコンサート

が計画されています。近日中に岡山県支部総会も開催され詳細が発表されます。

このように各地で卒業生の方々のご活躍の一報が日々届いております。

音楽学部及び短大音楽学科では、今年度の入試から、同窓生が推薦する方が受験できる制度が制定されます。卒業生のみなさまがご指導された生徒さんをご推薦いただき、実技等のみで受験できるという制度ですので、是非詳細は大学から送付される資料でご確認ください。

大学と同窓会が連携する場が今後増えてきますので、ご理解ご支援のほどよろしくお願いいたします。

今年度、大学の音楽学科の吹奏楽団が鹿児島公演を12月に計画しています。鹿児島県支部のご協力をいただき、在学生が素晴らしい演奏を披露する機会ですので、是非ご来場いただけますようお願いいたします。

翠会だより

平成23年度 作陽短期大学・作陽音楽短期大学同窓会総会並びに懇親会開催

翠会会員の皆様方におかれましては、日頃より多大なるご支援とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて今年は翠会総会開催の年となっております、下記のとおり平成23年11月20日(日)「メルパルクOKAYAMA」にて開催することに決定いたしました。会員の皆様へは、8月下旬にご案内を差し上げる予定ですので、多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

なお、前回も総会・懇親会の際に、同期会を開催したいとのお問い合わせを多数いただきました。引き続き翠会では、このような同期会などへの助成を行っていますので、是非この機会をご活用いただき、有意義な時間としていただければと思います。



平成23年度 「翠会総会並びに懇親会」

日時 平成23年11月20日(日) 11:00~15:00

場所 メルパルクOKAYAMA (岡山市北区桑田町1-13)

会費 5,000円

当日は託児室をご用意いたしますので、小さなお子様をお連れの会員の方も安心してご参加ください。

同窓会を開きました！

作陽短期大学 保育科を昭和42年に卒業された方から届きました。

『卒業してから44年ぶりの再会でたちまち学生時代にタイムスリップ！

恩師の堤博子先生と今西一実先生を囲み、津山での学生生活の思い出話に花が咲きました。』



平成22年度決算について

資金収支計算書

【収入の部】 (単位: 百万円)				
科 目	予 算	決 算	差 異	
学生生徒等納付金収入	2,106	2,127	△20	
手 数 料 収 入	32	34	△2	
寄 付 金 収 入	88	112	△24	
補 助 金 収 入	499	526	△27	
資 産 運 用 収 入	34	38	△5	
資 産 売 却 収 入	300	300	0	
事 業 収 入	92	73	18	
雑 収 入	259	253	6	
前 受 金 収 入	401	426	△26	
そ の 他 の 収 入	67	87	△20	
資金収入調整勘定	△602	△618	16	
前年度繰越支払資金	2,620	2,620	0	
収 入 の 部 合 計	5,895	5,978	△83	

【支出の部】 (単位: 百万円)				
科 目	予 算	決 算	差 異	
人 件 費 支 出	1,996	1,947	49	
教育研究経費支出	596	589	7	
管 理 経 費 支 出	264	256	8	
借入金等利息支出	0	0	0	
借入金等返済支出	0	0	0	
施 設 関 係 支 出	5	8	△3	
設 備 関 係 支 出	49	40	9	
資 産 運 用 支 出	300	419	△119	
そ の 他 の 支 出	117	135	△18	
[予 備 費]	0	0	0	
資金支出調整勘定	△86	△123	37	
次年度繰越支払資金	2,655	2,707	△52	
支 出 の 部 合 計	5,895	5,978	△83	

《資金収支の概要》

収入については学生生徒等納付金収入、補助金収入、事業収入等の増加により、予算比8,300万円増の合計59億7,800万円となりました。

一方、支出については、人件費支出、教育研究経費支出、管理経費が合計で予算比6,400万円の減少となりました。

資産運用支出は有価証券購入支出、奨学貸与金支払支出により予算比1億1,900万円の増加となりました。

収入合計と同様、支出合計は予算比8,300万円の増加となりました。

貸 借 対 照 表

【資産の部】 (単位: 百万円)				
科 目	平成22年度末	平成21年度末	増 減	
固 定 資 産	19,643	19,886	△243	
有形固定資産	16,365	16,720	△355	
土地	5,730	5,730	0	
建物	9,692	9,913	△222	
構築物	102	159	△57	
教育研究用機器備品	160	216	△56	
その他の機器備品	19	22	△3	
図書	663	680	△16	
車輛	0	1	△1	
その他の固定資産	3,277	3,166	112	
流 動 資 産	2,984	2,704	281	
資 産 の 部 合 計	22,627	22,590	37	

《貸借対照表の概要》

(資産について) 有形固定資産の減少は建物等の減価償却によるもの、その他固定資産の増加は、有価証券購入等によるものです。

流動資産の増加は、私大退職金財団交付金収入による未収入金の増加及び有価証券等の満期償還による現金預金の増加によるものです。

(負債について) 流動負債の増加は未払金、前受金によるものです。

(基本金について) 増加の主因は、教育研究に係る機器備品・図書に係る基本金組入によるものです。

(消費収支差額について) 前年度までの支出超過額に今年度の支出超過額2,600万円(今年度消費収支差額+基本金取崩額)が加わりました。

消費収支計算書

【収入の部】 (単位: 百万円)				
科 目	予 算	決 算	差 異	
学生生徒等納付金	2,106	2,127	△20	
手 数 料	32	34	△2	
寄 付 金	90	114	△24	
補 助 金	499	526	△27	
資 産 運 用 収 入	32	36	△4	
事 業 収 入	92	73	18	
雑 収 入	259	253	5	
帰 属 収 入 合 計	3,110	3,164	△54	
基本金組入額合計	△53	△27	△26	
消費収入の部合計	3,057	3,137	△80	

【支出の部】 (単位: 百万円)				
科 目	予 算	決 算	差 異	
人 件 費	1,952	1,922	30	
教育研究経費	910	895	16	
管 理 経 費	334	326	8	
借入金等利息	0	0	0	
資産処分差額	1	29	△28	
徴収不能引当金繰入額	4	6	△2	
徴 収 不 能 額	1	0	1	
[予 備 費]	0	0	0	
消費支出の部合計	3,202	3,178	24	
当年度消費支出超過額	△145	△40		
前年度繰越消費支出超過額	1,544	1,544		
基 本 金 取 崩 額	0	14		
翌年度繰越消費支出超過額	1,689	1,570		

《消費収支の概要》

収入について、学生生徒等納付金、手数料、補助金、資産運用収入の合計が予算比で7,700万円の増加となっており、帰属収入合計は予算比5,400万円増の31億6,400万円となっています。その結果、消費収入合計は予算比8,000万円増の31億3,700万円となりました。

支出については人件費3,000万円、教研経費1,600万円、管理経費800万円の予算比減少となっており、経費節減の効果が表れているといえます。その結果、消費支出合計は予算比2,400万円減少し31億7,800万円となりました。

当年度消費支出超過額は予算比で収入増及び支出減となったことにより4,000万円となりました。その結果、翌年度繰越消費支出超過額は15億7,000万円となりました。

【負債の部】 (単位: 百万円)				
科 目	平成22年度末	平成21年度末	増 減	
固 定 負 債	689	684	6	
流 動 負 債	541	497	44	
負 債 の 部 合 計	1,231	1,181	50	

【基本金の部】 (単位: 百万円)				
科 目	平成22年度末	平成21年度末	増 減	
第 1 号 基 本 金	22,574	22,562	12	
第 2 号 基 本 金	0	0	0	
第 3 号 基 本 金	167	167	0	
第 4 号 基 本 金	225	225	0	
基 本 金 の 部 合 計	22,966	22,954	12	

【消費収支差額の部】 (単位: 百万円)				
科 目	平成22年度末	平成21年度末	増 減	
翌年度繰越消費収入超過額	△1,570	△1,544	△26	
消費収支差額の部合計	△1,570	△1,544	△26	

【負債の部、基本金の部、消費収支差額の部合計】 (単位: 百万円)				
科 目	平成22年度末	平成21年度末	増 減	
負債の部、基本金の部 消費収支差額の部合計	22,627	22,590	37	

※ 表示された数値以下の端数は個々に四捨五入してあるので、合計欄の数値と一致しない場合があります。

演奏会等のご案内

7月

July 2011

1日(金) 作曲専修作品発表会

<開演> 18:45

■ピアノ作品

■会場/聖徳殿 ■入場料/無料

4日(月) 第19回作陽トロンボーンアンサンブル
サマーコンサート

<開演> 19:00

■曲目/The Trojan Trombones, AKB48メドレー他

■会場/野外音楽堂(雨天時食堂) ■入場料/無料

13日(水) ヴォーカルサマーコンサート

<開演> 18:45

■曲目/未定

■会場/聖徳殿 ■入場料/無料

15日(金) MILESTONE CONCERT
(ピアノ・アンサンブル)

<開演> 16:45

■曲目/未定

■会場/聖徳殿 ■入場料/無料

16日(土) 作陽ジュニア・ウインド・アカデミー
第2回定期演奏会

<開演> 14:00

■曲目/マーチ「锚を上げて」, サウンド・オブ・ミュージック他

■会場/藤花楽堂 ■入場料/300円

25日(月) オペラ演習Ⅰ・Ⅱ、大学院オペラ演習、
26日(火) 演奏法(声楽専修)、オペラ研究員、
<開演> 未定 前期研修発表会

■曲目/ドン・ジョバンニより抜粋, リゴレットより抜粋

■会場/聖徳殿 ■受講料/無料

8月

August 2011

7日(日) サマーキッズ・キャンパス

■会場/全館

9月

September 2011

25日(日) 作陽ウインド・アンサンブル
第22回定期演奏会

<開演> 14:00

■曲目/未定

■会場/藤花楽堂 ■入場料/500円

10月

October 2011

2日(日) MASHピアノコンサート
~Autumn Collection '11~

<開演> 14:00

■曲目/未定

■会場/聖徳殿 ■入場料/無料

16日(日) 第16回フルートフェスティバル

<開演> 14:00

■曲目/未定

■会場/藤花楽堂 ■入場料/500円

下旬 第26回

<開演> 14:00

作陽サクソフォン・オーケストラ演奏会

■曲目/未定

■会場/藤花楽堂 ■入場料/500円

11月

November 2011

10日(木) ピアノ教員による音楽夜会Ⅶ
フランツ・リスト生誕200年祭

<開演> 18:45

■フランツ・リストの作品を軸として構成

■会場/藤花楽堂 ■入場料/無料

11日(金) 平成23年度
シンフォニックバンド研究発表会

<開演> 18:45

■曲目/Florentiner March, 3つのジャポニズム他

■会場/藤花楽堂 ■入場料/無料

26日(土) EARNEST CONCERT

27日(日)

■曲目/Preludio corale e fuga, Valse caprice No.4 他

<開演> 13:30

■会場/聖徳殿 ■入場料/無料

26日(土) くらしき作陽大学
アカデミア・ウインド・オーケストラ
第10回定期演奏会2011

<開演> 14:00

■曲目/未定

■会場/藤花楽堂 ■入場料/500円

27日(日) 第24回日本伝統芸能専修・邦楽演奏会
「さくよう歌舞座」

<開演> 14:00

■曲目/未定

■会場/藤花楽堂 ■入場料/500円

30日(水) 第34回作品のタベ

<開演> 18:45

■本学作曲教員による作品

■会場/藤花楽堂 ■入場料/1,000円

作陽音楽短期大学 音楽学科長 丹代 茂

本学では今年もまた、皆様のお役に立てればと思い、昨年に引き続き2つの講座を開講いたします。

自分で作った詩や好きな詩にメロディーをつける「初心者のための作曲講座」と、昨年開講し、とても勉強になったと喜んでいただけた「音楽療法講座」です。

我々の身の回りには必ず音楽があります。世界にただ1つ、自分のメロディーを作ってみませんか。勉強や楽しみのために興味ある方は是非参加し、お役に立てていただきたいと思います。

「初心者のための作曲講座」

講師：作陽音楽短期大学 教授 矢内直行



まず、音楽をつけて歌にしてみようと思われる詩をご用意ください。どのような形式・内容でもよいですが、あまり長すぎないもの、短いなら短歌でも俳句でも立派な歌曲になります。自作の詩がベストですが、ほかの人の作品でも構いません。また、楽譜が苦手な方、和音など音楽の知識がなくても、カラオケが好きな方、自分で思いついたメロディを歌える方なら大丈夫です。詩の情感・言葉の抑揚にあわせてメロディを考え、伴奏の和音をつけ、構成を整えれば完成。どなたにでもオリジナル歌曲ができるようお手伝いいたします。

■開講日：第1回 8月6日(土) 10:00~12:00

第2回 8月27日(土) 10:00~12:00

■受講料：2,000円(どちらか1回のみの場合は1,000円)

「音楽療法講座」

講師：作陽音楽短期大学 教授 柿崎次子



今回は、昨年度とくに好評であった感覚統合のみに焦点をあて、子どもの発達に重要な影響を与える感覚統合の機能、そしてその療法的アプローチについて、様々な楽器や道具を使い、音楽療法の視点からわかりやすくご紹介いたします。

■開講日：第1回 8月27日(土) 10:00~11:30

第2回 8月28日(日) 10:00~11:30

■受講料：2,000円(どちらか1回のみの場合は1,000円)

※都合により日程、出演者等、内容が変更になる場合がございます。
最新情報はお電話又は大学ホームページにてご確認ください。

公開講座についてのお問い合わせは大学事務局まで
TEL: 086-523-0822 (企画・改革係)

卒業生の皆様の記憶に残る 松田藤子先生の教えを募集します



1930年（昭和5年）の津山女子高等芸芸学院創設を発祥として、2010年で作陽学園は創立80周年を迎えました。この節目の年を記念して「松田藤子先生の教え」（仮称）を発刊する予定です。

つきましては卒業生の皆様の記憶に残る松田藤子先生の教えや思い出を募集したいと思っております。卒業生の皆様からの多数のご応募をお待ちしています。

学園長 松田 英毅

応募様式 ※ワープロでの文書を郵送または、Eメールでお送りください。

1. 氏名 2. 卒業機関と専門(例：作陽短期大学家政科) 3. 卒業年度(または何期生)
4. 記憶に残る松田藤子先生の教え

※このたび、直接お話をおきかせいただける方も募集しております。ご連絡いただけましたら、こちらから取材に参ります。(取材担当者：山下亨、深川)

また、松田藤子先生から届いたお手紙などで、編集に利用させていただけるものがございましたら、是非、コピーをお送りください。

宛先 〒710-0292 岡山県倉敷市玉島長尾3515 くらしき作陽大学 総務室

TEL:086-523-0822 Eメール:pub@ksu.ac.jp

締切 平成23年9月30日(金)必着

作陽学園創立80周年記念事業に伴う募金のお願い

本学園は、平成22年度に創立80周年を迎えました。これもひとえに皆様のご支援・ご指導の賜物であると、心より感謝申し上げます。

この度、作陽学園創立80周年を記念し、下記のとおり記念事業を計画いたしました。本学園のさらなる飛躍をめざし、教職員一丸となって取り組んで参る所存です。

つきましては、同窓生、在学生の御父母及び関係各位の皆様には、本事業に格段のご理解を頂きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

理事長 松田 英毅

【作陽学園創立80周年記念事業】

《作陽高等学校》

- ①創立80周年記念館「食堂兼男子寮」建設（平成20年4月竣工）
- ②施設設備の改修
- ③創立80周年記念式典

《くらしき作陽大学、作陽音楽短期大学》

- ①くらしき作陽大学管弦楽団／ブラハ交響楽団合同演奏会の開催（平成22年1月開催）
- ②くらしき作陽大学&国立Milanoヴェルディ音楽院友好記念オペラ公演の開催（平成22年9月・10月開催）
- ③栄養ケアセンターの設立
- ④フォーラム『「明日の食育を考える」 in くらしき作陽』（仮題）の開催
- ⑤子育て支援センターの設立

【本事業へのご支援をお考えの方へ】

本事業につきましては、募金趣意書に詳細が記載されております。

また、お申し込みには、趣意書に同封しております寄附金申込書が必要となります。ご不明な点等ございましたら、下記へお問い合わせください。

◇ **お問合せ先** 【大学・短大】大学事務局 総務室 TEL:086-523-0822
【高等学校】高校事務局 TEL:0868-23-2188

学園報に関するお問い合わせは

作陽学園事務局

学園報担当(総務室)

〒710-0292 岡山県倉敷市玉島長尾3515
tel 086-523-0822 / fax 086-523-0811
E-Mail webmaster@ksu.ac.jp